（調査資料）

通級による指導（難聴）における言語指導の現状と課題

松　村　勘　由*・牧　野　泰　美**・横　尾　俊*

（*教育研修情報部）（**企画部）

要旨：通級による指導（難聴）における言語指導の現状を実践報告等の資料と調査により概観した。通級による指導（難聴）では，「聞く話す」のコミュニケーションについての指導が広く行われていること，「読む書く」の指導では，文字や語彙，文法など言語の形式的側面での要素的指導と短文の読解などスキルを培う指導が多く行われていることなどが分かった。

見出し語：通級による指導（難聴），言語指導，リテラシー，読み書きの指導，コミュニケーション

Ⅰ．はじめに

通級による指導は，軽度の障害のある児童生徒に対して，各教科等の指導は通常の学級で行いつつ，障害に応じた特別の指導を特別の指導の場で行うという仕組みである。

「通級による指導（難聴）」では，聴覚障害に基づく種々の困難の改善・克服を目的とする指導を行うが，特に必要があるときは，その障害の状態に応じて各教科の内容を補充するための特別の指導を行うこととされている[7)]。

聴覚障害に基づく種々の困難の改善・克服を目的とする指導には，聴覚障害の程度が比較的軽度の児童生徒を対象としているので，その指導においては保有する聴力の活用が優先され，聴覚を活用するために補聴器を適切に装用する指導，聴覚学習として聞く態度の育成，聞き取りの練習，音声の聴取・弁別の指導，語彙の拡充のための指導，言語概念の形成を図る指導，日記等の書き言葉の指導などが挙げられている。さらに，難聴に対する自分なりの受け止め，周囲の人たちの思いなどについても理解を深めることにより，通常の学級における学習や生活を円滑に行うことができるようにするための援助や助言も大切であるとされている[9)]。

聴覚に障害のある子どもの教育では，その障害の特性から，聴覚の活用や言語の発達に関する指導が重要である。特に，小学校段階は，教科指導が始まることから，言葉に関する指導が，話し言葉から書き言葉へと広がっていく時期である。

通級による指導においても，言葉に関する指導は，指導内容の大きな柱となっている。

本稿では，通級による指導における言葉に関する指導（以下，言語指導という）について，その現状を調査し，今後の言語指導の検討すべき課題を整理することとした。

Ⅱ．「通級による指導（難聴）」の指導の現状

ここでは，通級による指導（難聴）で指導を受けている児童生徒の実際の状況を整理する。

1．「通級による指導（難聴）」で指導を受けている児童生徒の数

特別支援教育資料（平成18（2006）年度文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）[8)]では，小中学校に在籍する児童生徒の中で，「通級による指導（難聴）」で指導を受けている者の数は表１のようになっている。

表１　小学校と中学校において「通級による指導（難聴）」を受けている児童生徒数の比較

通級による指導を受けている児童生徒数	
小学校	中学校
1,495（人）	282（人）
在籍する児童生徒数	
7,187,418（人）	3,601,527（人）
在籍する児童生徒数に対する「通級による指導（難聴）」を受けている児童生徒数の割合	
0.02080％	0.00783％

（出所）通級による指導を受けている児童生徒数は文部科学省「特別支援教育資料 平成18年度」より。在籍する児童生徒数は文部科学 省「平成18年度学校基本調査」。割合は２つの資料を基に算出

義務教育段階の児童生徒数に対して，「通級による指導（難聴）」を受けている児童生徒数の割合は，小学校段階と中学校段階を比較すると，小学校段階で指導を受ける児童数の割合が中学校段階で指導を受ける生徒数の割合より極めても多い。

また，義務教育段階の聴覚に障害のある児童生徒の教育の場の状況は表２のようになっている。

義務教育段階の聴覚に障害のある児童生徒の教育の中で，聾学校で教育を受ける児童生徒数，難聴特殊学級で教育を受ける児童生徒数，通常の学級に在籍し，通級による指導を受ける児童生徒数を比較すると，特に，小学校段階で，通級による指導を受ける児童生徒の割合が多い。

２．通級による指導（難聴）で指導を受けている児童生徒の障害の状況

独立行政法人国立特殊教育総合研究所が平成18（2006）年度に行った「全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査」[1)] によると表３のような結果が得られている。

表３　週１回以上指導を受けている児童生徒の聴力のレベル

聴力レベル	-40dB	40-59dB	60-79dB	80-99dB	100dB-	不　明	合　計
人　　数	141	297	453	359	285	35	1,570

（出所）国立特別支援教育総合研究所「平成18年度全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査」の資料を基に作成

通級による指導を週１回以上受けている児童生徒の聴力レベルの状況は，40dB未満から100dBを超えるものまで多岐にわたっている。

Ⅲ．通級による指導（難聴）における教育課題

１．全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査から見える教育課題

独立行政法人国立特殊教育総合研究所が平成18（2006）年度に行った「全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査」[1)] から，通級による指導（難聴）における教育課題に関する事項を指導内容・方法と指導体制等に関する観点から次のように整理した。

（1）指導内容・方法の観点

①言語指導に関する課題

指導内容に関わるもので最も多く回答されているものは，言語指導に関連する事項で，具体的には基礎的言語力の課題，書き言葉の理解や表現の課題とそれらの指導に関する課題で，基礎的言語力の中では，語彙力の向上について挙げるものが多く，書き言葉については，助詞の指導に関する記述が多い。

また，適切な指導法を模索している状況や指導に

表２　小学校と中学校において義務教育段階の聴覚に障害のある児童生徒の教育の場の比較

小学校段階にある児童の人数と割合				中学校段階にある児童の人数と割合			
聾学校	難　聴 特殊学級	通級による 指導（難聴）	合　計 （割　合）	聾学校	難　聴 特殊学級	通級による 指導（難聴）	合　計 （割　合）
2,210（人）	822（人）	1,495（人）	4,527（人）	1,279（人）	354（人）	282（人）	1,915（人）
48.8%	18.2%	33.0%	100.0%	66.8%	18.5%	14.7%	100.0%

（出所）文部科学省「特別支援教育資料 平成18年度」の資料を基に作成

多くの時間を要することなどの記述が多い。

②発音指導に関する課題

発音指導に関する課題では「サ」行音の指導についての記述が多い。

③コミュニケーションに関する課題

主として，在籍する通常の学級の児童生徒とのコミュニケーションに関する記述が多い。

④障害の捉え方に関する課題

児童生徒自身の障害認識の課題が多く記述されている。また，軽度の聴力障害を有する児童生徒の障害認識を課題とする記述も見られている。

⑤学力に関する課題

学力に関しては，基礎的学力の不足を記述するもの，指導者側に立って，効果的な指導に関する専門的な知識の不足を記述するもの，限られた時間の中で教科の補充の指導に関する記述が見られた。

（2）指導体制等に関する観点

①在籍する通常の学級での活動に関する課題

指導体制に関する課題として，最も多く記述されているものは，在籍する通常の学級での活動に関する課題である。具体的には，他の児童とのコミュニケーションの課題，情報保障，教科学習，障害の理解や人間関係などの課題が挙げられている。

②通級による指導を行うための体制に関する課題

続いて，担当教員の専門性の不足，指導時間の不足，設備・備品等の不足など通級による指導を行う側の諸条件に関する課題が挙げられている。

③通常の学級との連携に関する課題

その他，連携に関する内容も多く記述され，特に，通常の学級との連携が課題として取り上げられている。

以上，報告書から要約して抜粋したが，指導内容方法に関する観点では，言語指導に関する課題が最も多く取り上げられており，指導体制に関する観点では，通常の学級での指導や通常の学級との指導上の連携に関しての課題が多く取り上げられていた。

２．全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（全国大会）難聴分科会のテーマから見える教育課題

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（以下，全難言協）が，毎年開催している全国大会の難聴教育に関する分科会のテーマでは，教室経営，学級経営，通常の学級との連携，保護者への支援，情報保障，障害理解，障害認識など多様な内容が取り上げられているが，言語指導に関連する内容を取り上げる発表もいくつか見られている。以下に最近の10年間における言語指導に関連する実践の報告を整理した。

（1）平成12（2000）年度山形大会第８分科会

本分科会では，「難聴児への副詞と文章スキルの指導」（青森県野辺地町立若葉小学校教諭吉田まゆみ氏報告）との標題で，読解力をつけるために行った副詞の取り立て指導と文章スキルの系統的指導の報告が行われている。また，「Ａ子先生の授業－高度難聴Ａ子の表現力向上を願って－」（岩手県釜石市大渡小学校教諭遠藤芳幸氏報告）では，かけ算の筆算と適用する文章題の指導を通し，先生と子どもの役割を交代する場面設定で行った言語表現の力を培う指導の発表が行われている。

（2）平成15（2003）年度群馬大会Ａ－８分科会

本分科会では，「聴覚活用とコミュニケーション指導」（神奈川県平塚市立崇善小学校教諭山崎善男氏報告）の標題で，聴覚活用の指導の中で，聴解力を培うとともに語彙力や構文力を高めるための指導の実践が報告されている。

（3）平成16（2004）年度近畿大会「聴覚障害Ⅰ（集団での指導）」分科会

本分科会では，「集団のよさを大切に－自立活動の実践を通して－」（兵庫県伊丹市立伊丹小学校教諭杉本浩氏報告）との標題で，グループによる自立活動の指導が取り上げられ，ことば遊び，スピーチ，劇学習など，楽しみながらコミュニケーションの基本となる力をつけていくことをねらいとした取り組みや，生活経験を話し合ったり，他校の難聴学級との交流の取り組みなどが報告されている。また，「『コミュニケーションの力』を育てるために」（奈良市立椿井小学校聞こえの教室報告）では，「進んで話し合おうとする態度，自分の思いをわかりやすく伝える力，話し手を見て最後まで聴き取ろうとする力」をコミュニケーションの力として捉え，グループ学習による自立活動の時間を設け，和太鼓の

演奏，お話し会，クリスマス会などの行事や他地域の難聴学級との交流を通した指導の実践が報告されている。

（4）平成17（2005）年度宮崎大会「聴覚に障害のある子どもへの支援」分科会

本分科会では，いきいきと活動する子どもをめざして－難聴通級指導教室の取り組みから－」（熊本県熊本市立慶徳小学校教諭岩嵜玲子氏報告）との標題で，個別指導とグループ指導を組合せ，個別指導で行った聴覚学習，発音指導，会話練習，作文指導などの成果をグループ学習で発揮し，さらに通常の学級で発揮していくことをねらった指導の実践が報告されている。

（5）平成18（2006）年度岐阜大会の第１分科会

「聞こえに心配のある子どもへの読み書き指導」では，「読み書き能力の向上をめざして－難聴グループでの「書く」と「読む」の活動－」（神奈川県相模原市立橋本小学校教諭戸田淑子氏報告）との標題で，在籍する通常の学級での学習に先行して行う手紙文を書く学習，「読書のアニマシオン的活動」[注1)]を取り入れた学習をグループ学習で行った実践が報告されている。また，「ことばを育む指導－聴覚障害児学級の取り組みから－」（愛知県岡崎市立三島小学校教諭田中寿和氏報告）では，正しいことばを身につけさせる場として，教科指導を取り上げ，国語科や算数科などの授業の中で，言葉の力を育てる指導の取り組みが報告されている。

これらの報告における言語指導に関する内容では，直接，言語の要素を課題学習的に取り上げ指導するものは少なく，コミュニケーション活動や教科の指導の中で行う報告が多い。また，聞く話す等コミュニケーションの力を育てる視点での実践と，読む書くのリテラシーの力を育てる視点での実践がそれぞれに報告されている。

注１）　読書のアニマシオン的活動
アニマシオンは，スペインのモンセラ・サルト氏が開発した読書指導法で，戸田淑子氏は，アニマシオン的活動として「ダウトとさがせ」のタイトルで，「指導者が登場人物の名前，持ち物，ことばなどを所々違えて読む。聞いている子どもは間違えに気づいたら『ダウト』と言う。」活動を報告している[24)]。

Ⅳ．「通級による指導（難聴）」における難聴児童への言語指導に関する調査

前項では，独立行政法人国立特殊教育総合研究所が平成18（2006）年度に行った「全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査」及び全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（全国大会）難聴分科会資料を基に，通級による指導（難聴）における言語指導に関する事項を検討した。

ここでは，これらの検討を踏まえ，通級による指導（難聴）における言語指導の状況を概観するために行った調査の概要を報告する。

１．調査の名称

「通級による指導（難聴）」における難聴児童への言語指導に関する調査。

２．調査の目的

通級による指導（難聴）における言語指導についての状況を具体的な指導の実際の活動の側面から把握すること。

３．調査の対象

通級による指導（難聴）の指導経験のある担当の教員

なお，本調査では，通級による指導（難聴）の対象児童生徒数及び指導担当教員数の現状を踏まえ，調査対象を小学校に限定して行った。

４．調査の方法

全難言協全国大会（東京大会）（平成19（2007）年８月２日）の参加者約120名に調査票を配布し，回答の期限を平成19（2007）年８月15日を目安として，郵送にて返送を依頼し，回収した。

５．調査内容

調査内容は，次の３つの観点で設定した。

（1）通級による指導における難聴児童への言語指導について

通級による指導の指導内容をその教育課程の規定から「障害を改善克服するための特別な指導」と「各

教科の補充指導」について，実践場面において実際に行っていると思われることをあらかじめ設問項目とし，その実施の有無を尋ねた。また，各設問項目をまとめ「～に関する事項」とした。

（2）言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について

通級による指導の趣旨を踏まえ，在籍学級との連携について，実際に行っていると思われることをあらかじめ設問項目として設定し，その実施の有無を尋ねた。また，各設問項目をまとめ「～に関する事項」とした。

（3）通級による指導における難聴児童への言語指導についての考え方

上記（1）の各設問に対応した言語指導についての回答者の考えを尋ねた。

6．設問項目

前述の（1）から（3）までの設問内容に対応し，以下のような設問項目を設定した。（設問項目を含む調査票は，本論文の末尾に掲載）

（1）通級による指導における難聴児童への言語指導について

この設問については，「障害を改善克服するための特別な指導」と「各教科の補充指導」の観点から，以下のような具体的な設問項目を設定した。

①障害を改善克服するための特別な指導

1）言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項

2）在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）

3）聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項

4）読むこと・書くことなどに関する事項

5）言葉に関する基礎的な事項

6）文字などの表記に関する基礎的事項

②各教科の補充指導

（2）言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について

①各教科等の学習を円滑に進めるための言語指導に関する事項

②生活やコミュニケーションを豊かにするための言語指導に関する事項

（3）通級による指導における難聴児童への言語指導についての考え方

①言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項

②在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）

③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項

④読むこと・書くことなどに関する事項

⑤言葉に関する基礎的な事項

⑥文字などの表記に関する基礎的事項

⑦各教科の補充指導

7．回答方法

前述（1）の「通級による指導における難聴児童への言語指導について」の各設問では，各指導項目毎に指導事項の観点を設け，その具体的な指導及び学習活動の例を示し，その内容の指導を実施しているかどうかを尋ねた。

前述（2）の「言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について」では，在籍する通常の学級との連携して取り組んでいる活動について，特によく行っていることに◎，よく行っていることに○，あまり行っていないことに△，行っていないことに×を回答用紙に記入することとした。

前述（3）の「通級による指導における難聴児童への言語指導についての考え方」では，特に重要だと思われることに◎，重要だと思われることに○，あまり重要でないと思われることに△，重要でないと思われることに×を回答用紙に記入することとした。

8．調査結果

回収された81名分の調査票を集計・分析し，その概要を以下に記した。

（1）通級による指導における難聴児童への言語指導について

①言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項

●コミュニケーションへの意欲態度に関する事項

表４－１　人と話す意味や楽しさを理解する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	64	79.0
よく行っている	16	19.8
あまり行っていない	0	0
行っていない	0	0
その他	1	1.2

「教師や仲間との話し合い（おしゃべり）などを通して，人と話す楽しさや喜びを知るなど人と話す意味や楽しさを理解する」の設問に対して，回答の多くが「特によく行っている」との回答で「よく行っている」の回答を含めて，ほぼ全ての回答者が行っていると回答した。

●文字や言葉に関心を持つ

表４－２　日常生活の中で触れる文字や言葉に関心を持ち，調べたり，尋ねたり，話し合ったりする

	回答数	割合（%）
特によく行っている	44	54.3
よく行っている	29	35.8
あまり行っていない	7	8.7
行っていない	0	0
その他	1	1.2

「日常生活の中にある様々な言葉について，調べたり，尋ねたり，話し合ったりするなど日常生活の中で触れる文字や言葉に関心を持ち，調べたり，尋ねたり，話し合ったりする」の設問に対しては，「特によく行っている」との回答と「よく行っている」との回答が多く全体の９割を超えた。

●読書活動への関心と意欲

表４－３　読書に親しみ，読書習慣を形成する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	21	25.9
よく行っている	32	39.5
あまり行っていない	19	23.5
行っていない	7	8.6
その他	2	2.5

「本の読み聞かせや紹介を通して，読書の楽しさを知らせたり，読後の感想などを話し合ったりするなど読書に親しみ，読書習慣を形成する」の設問に対しては，回答の３割が「あまり行っていない」「行っていない」の回答であった。

言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項はで，話し合いをしたり，言葉を調べたりするなどについて，多くの回答者の指導事項とされていたが，それに比べて，読書に関する内容での回答は少なかった。

②在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）

●在籍学級（在籍校）への働きかけ

表４－４　在籍学級担任（関係教職員）への難聴児童の理解や配慮・指導の在り方についての説明

	回答数	割合（%）
特によく行っている	31	38.3
よく行っている	45	55.6
あまり行っていない	3	3.7
行っていない	1	1.2
その他	1	1.2

「在籍学級担任（関係教職員）への難聴児童の理解や配慮・指導の在り方についての説明」について尋ねているが，「特によく行っている」「行っている」の回答を合わせて，行っているの回答が９割を超えた。

表４－５　在籍学級を訪問し，学級の児童に対して難聴の理解や難聴児童とのコミュニケーション等についての説明

	回答数	割合（%）
特によく行っている	18	22.2
よく行っている	42	51.9
あまり行っていない	13	16.0
行っていない	6	7.4
その他	2	2.5

「在籍学級の他の児童への難聴や難聴児童とのコミュニケーション等について説明」の設問については，「特によく行っている」「よく行っている」の回答を合わせて約７割となった。

●家庭（保護者・家族）への働きかけ

表４－６　難聴児童の理解や家庭での配慮・指導の在り方についての説明

	回答数	割合（%）
特によく行っている	37	45.7
よく行っている	38	46.9
あまり行っていない	3	3.7
行っていない	1	1.2
その他	2	2.5

「難聴児童の理解や家庭での配慮・指導の在り方についての説明」など，家庭（保護者・家族）への働きかけについては，「特によく行っている」「よく行っている」の回答を合わせて９割を超えた。

在籍学級や保護者への働きかけは，ほとんどの回答者が行っているとの回答をしている。ただし，在籍学級への働きかけの中で，在籍学級の児童への働きかけを行っていない回答が多かった。

③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項

●聞くこと・話すことなど基礎的な言葉の力

表４－７　話し言葉を聴き取り理解する力（理解）

	回答数	割合（%）
特によく行っている	22	27.2
よく行っている	43	53.1
あまり行っていない	11	13.6
行っていない	4	4.9
その他	1	1.2

表４－８　伝えたい内容を言葉で表現する力（表現）

	回答数	割合（%）
特によく行っている	17	21.0
よく行っている	43	53.1
あまり行っていない	16	19.7
行っていない	3	3.7
その他	2	2.5

「聞くこと・話すことなど基礎的な言葉の力」を育てる指導について，「話し言葉を聴き取り理解する力を育てる指導（理解）」では，「特によく行っている」「よく行っている」の回答が約８割，「伝えたい内容を言葉で表現する力を育てる指導（表現）」では，「特によく行っている」「よく行っている」の回答が約７割となった。

●話し手の意図を聴き取る力，自分の意図を伝える力

表４－９　話し手に傾聴し，その意図を掴みながら，内容を理解する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	34	42.0
よく行っている	35	43.2
あまり行っていない	10	12.4
行っていない	1	1.2
その他	1	1.2

表４－10　伝えたい内容を整理し，相手に理解されるように表現する力

	回答数	割合（%）
特によく行っている	35	43.2
よく行っている	31	38.3
あまり行っていない	12	14.8
行っていない	2	2.5
その他	1	1.2

「話し手の意図を聴き取る力，自分の意図を伝える力」を育てる指導については，「話し手に傾聴し，その意図を掴みながら，内容を理解する力」を育てる指導，「伝えたい内容を整理し，相手に理解されるように表現する力」を育てる指導とも，「特によく行っている」「よく行っている」の回答が８割を超えた。

●言葉のやりとりを通し気持ちや考えなどを伝え合う力

表４－11　相手と話題を共有しテーマに沿った話し合いをする力

	回答数	割合（%）
特によく行っている	26	32.1
よく行っている	31	38.3
あまり行っていない	20	24.7
行っていない	3	3.7
その他	1	1.2

表４－12　相手の話に対応して自分の話をするなど言葉でやりとりする力

	回答数	割合（%）
特によく行っている	25	30.9
よく行っている	38	46.9
あまり行っていない	14	17.3
行っていない	3	3.7
その他	1	1.2

「言葉のやりとりを通し気持ちや考えなどを伝え合う力」を育てる指導では，「相手と話題を共有しテーマに沿った話し合いをする力」を育てる指導ついて，「特によく行っている」「よく行っている」の割合が約７割，「相手の話に対応して自分の話をするなど言葉でやりとりする力」を育てる指導について，「特によく行っている」「よく行っている」の割合が約８割となった。

●生活の中で使う言葉の意味や使い方などに関する事項

表４－13　学校で使われる特有の言葉の意味や使い方

	回答数	割合（%）
特によく行っている	25	30.9
よく行っている	33	40.7
あまり行っていない	16	19.8
行っていない	6	7.4
その他	1	1.2

表４－14　児童の文化，時事的，社会的な事柄に関する言葉の意味や使い方

	回答数	割合（%）
特によく行っている	15	18.5
よく行っている	49	60.5
あまり行っていない	12	14.8
行っていない	4	5.0
その他	1	1.2

表４－15　生活の中で使う慣用句，四文字熟語，語法，文型など言葉の使い方

	回答数	割合（%）
特によく行っている	12	14.8
よく行っている	49	60.5
あまり行っていない	16	19.8
行っていない	3	3.7
その他	1	1.2

「生活の中で使う言葉の意味や使い方などに関する事項」では，「学校で使われる特有の言葉の意味や使い方」の指導について「特によく行っている」「よく行っている」の回答が約７割，「児童の文化，時事的，社会的な事柄に関する言葉の意味や使い方」では，「特によく行っている」「よく行っている」の回答が約８割，「生活の中で使う慣用句，四文字熟語，語法，文型など言葉の使い方」の指導について，「特によく行っている」「よく行っている」の回答が約７割となった。

「聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項」については，どの項目についても，回答者の７，８割が行っているとの回答をした。

④読むこと・書くことなどに関する事項

●文や文章を読み取る力（読解）

表４－16　短い文章の読み取り（短文読解）

	回答数	割合（%）
特によく行っている	34	42.0
よく行っている	37	45.7
あまり行っていない	7	8.6
行っていない	2	2.5
その他	1	1.2

表４－17　物語文，説明文などの読み物を読み取る力（長文）

	回答数	割合（%）
特によく行っている	16	19.8
よく行っている	31	38.3
あまり行っていない	27	33.3
行っていない	6	7.4
その他	1	1.2

「文や文章を読み取る力（読解）を育てる指導」で，「短い文章の読み取り（短文読解）」の指導については，「特によく行っている」「よく行っている」の回答が９割となったが，「物語文，説明文などの読み物を読み取る力（長文）」の指導については６割に留まった。

●文や文章を構成する力（作文）

表４－18　伝えたい内容を短い文で構成し表現する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	27	33.3
よく行っている	38	46.9
あまり行っていない	11	13.6
行っていない	4	5.0
その他	1	1.2

表４－19　経験したこと，考えたことなどを文章で表現する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	36	44.4
よく行っている	30	37.0
あまり行っていない	10	12.4
行っていない	4	5.0
その他	1	1.2

「文や文章を構成する力（作文）」を育てる指導については，「伝えたい内容を短い文で構成し表現する」指導，「経験したこと，考えたことなどを文章で表現する」指導とも「特によく行っている」「よく行っている」の回答が約８割となった。

読解指導で，長文の読解が６割に留まったのは，通常の学級での指導との区分や指導に当てる時間が足りない等通級による指導の指導時間との関係があるものと思われる。また，読解指導に比べると，文や文章での表現指導を行っている回答が少なかった。

⑤言葉に関する基礎的な事項

●言葉を拡げたり，言葉の相互関係を整理し理解する（語彙）

表４－20　知らない言葉分からない言葉について意味を推測したり調べたりして理解する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	27	33.3
よく行っている	42	51.9
あまり行っていない	8	9.9
行っていない	3	3.7
その他	1	1.2

表４－21　知っている言葉の概念や他の言葉とのつながりを整理し理解する

	回答数	割合（%）
特によく行っている	12	14.8
よく行っている	49	60.5
あまり行っていない	15	18.5
行っていない	4	5.0
その他	1	1.2

「言葉を拡げたり，言葉の相互関係を整理し理解する」指導について，「知らない言葉分からない言葉について意味を推測したり調べたりして理解する」指導では，約９割，「知っている言葉の概念や他の言葉とのつながりを整理し理解する」指導では，約８割が「特によく行っている」「よく行っている」の回答であった。

●文の意味を文の構造や形態に注目して理解する（文理解）

表４－22　構文に注目しながら文の意味を理解をする指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	11	13.6
よく行っている	36	44.5
あまり行っていない	26	32.1
行っていない	7	8.6
その他	1	1.2

表４－23　文の形態に注目しながら意味を理解する指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	9	11.1
よく行っている	35	43.2
あまり行っていない	28	34.6
行っていない	8	9.9
その他	1	1.2

「文の意味を文の構造や形態に注目して理解する（文理解）」指導については，「構文に注目しながら文の意味を理解をする指導」，「文の形態に注目しながら意味を理解する指導」とも行っている割合が少なく「特によく行っている」「よく行っている」を合わせて５割程度に留まった。

語彙に関する指導については多くの回答者が行っているが，構文や文の形態に関する事項の指導は比較的少なかった。

⑥文字などの表記に関する基礎的事項

●平仮名，片仮名，漢字などの文字を読んだり書いたりする指導（表記）

表４－24　かな文字（拗音，促音，撥音，仮名遣い等を含む）の読み書き（文字と音との関係の理解）

	回答数	割合（%）
特によく行っている	23	28.4
よく行っている	40	49.4
あまり行っていない	11	13.6
行っていない	6	7.4
その他	1	1.2

表４－25　漢字（送り仮名を含む）の読み書き

	回答数	割合（%）
特によく行っている	15	18.5
よく行っている	37	45.7
あまり行っていない	16	19.8
行っていない	12	14.8
その他	1	1.2

「平仮名，片仮名，漢字などの文字を読んだり書いたりする指導（表記）」では，「かな文字（拗音，促音，撥音，仮名遣いを含む）の読み書き（文字と音との関係の理解）」の指導について，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせて８割近くの割合となっているが，「漢字（送り仮名を含む）の読み書き」の指導では約７割であった。

●句読点，段落などの意味や表記についての理解の指導

表４－26　文や文章の区切りを意識して句読点を適切に打つこと

	回答数	割合（%）
特によく行っている	2	2.5
よく行っている	32	39.5
あまり行っていない	31	38.3
行っていない	15	18.5
その他	1	1.2

表４－27　文章のまとまりを意識し，段落の始めや会話の部分などの必要な箇所の改行をすること

	回答数	割合（%）
特によく行っている	3	3.7
よく行っている	28	34.6
あまり行っていない	37	45.7
行っていない	12	14.8
その他	1	1.2

「句読点，段落などの意味や表記についての理解の指導」では，「文や文章の区切りを意識して句読点を適切に打つことの指導」，「文章のまとまりを意識し段落の始めや会話の部分などの必要な箇所の改行をすることの指導」ともに，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせてた割合は約４割に留まった。

文字などの表記に関する基礎的事項の指導では，平仮名などの指導は行われているものの，漢字の指導や句読点など行っている回答は少なかった。

⑦各教科の補充指導

●国語科の補充指導

表４－28　躓きやすい内容をあらかじめ学習するなどの予習的な内容の指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	7	8.6
よく行っている	34	42.0
あまり行っていない	23	28.4
行っていない	16	19.8
その他	1	1.2

表４－29　教科書の単元や教材の内容のあらましを事前に学習するなどの予習的な内容の指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	6	7.4
よく行っている	22	27.2
あまり行っていない	33	40.7
行っていない	19	23.5
その他	1	1.2

表４－30　躓きやすい内容を確かめたり躓いている事柄を補う復習的な内容の指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	11	13.6
よく行っている	34	42.0
あまり行っていない	23	28.4
行っていない	11	13.6
その他	2	2.4

「躓きやすい内容をあらかじめ学習するなどの予習的な内容の指導」を行っている回答は，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせて約５割，「教科書の単元や教材の内容のあらましを事前に学習するなどの予習的な内容の指導」を行っている回答は約３割，「躓きやすい内容を確かめたり躓いている事柄を補う復習的な内容の指導」を行っている回答は約５割となった。

●算数科の補充指導

表４－31　算数の学習で必要な基礎的な概念を表す言葉（算数で使う言葉）についての指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	15	18.5
よく行っている	29	35.8
あまり行っていない	24	29.7
行っていない	12	14.8
その他	1	1.2

表４－32　文章問題など躓きやすい内容をあらかじめ学習するなどの予習的な内容の指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	3	3.7
よく行っている	25	30.9
あまり行っていない	31	38.3
行っていない	21	25.9
その他	1	1.2

表４－33　文章問題など躓きやすい内容を確かめたり躓いている事柄を補う復習的な内容の指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	9	11.1
よく行っている	31	38.3
あまり行っていない	23	28.4
行っていない	16	19.7
その他	2	2.5

「算数科の補充指導について，算数の学習で必要な基礎的な概念を表す言葉（算数で使う言葉）についての指導」を行っている回答は，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせて約５割，「文章問題など躓きやすい内容をあらかじめ学習するなどの予習的な内容の指導」を行っている回答は約３割，「文章問題など躓きやすい内容を確かめたり躓いている事柄を補う復習的な内容の指導」を行っている回答は約５割となった。

●その他の教科の補充指導

表４－34　学習のまとめなどの活動の際に，調べたことや考えたことを文章で表す指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	3	3.7
よく行っている	29	35.8
あまり行っていない	29	35.8
行っていない	19	23.5
その他	1	1.2

表４－35　学習に必要な資料を読んだり，調べたりする指導

	回答数	割合（%）
特によく行っている	2	2.5
よく行っている	27	33.3
あまり行っていない	30	37.1
行っていない	21	25.9
その他	1	1.2

「その他の教科の補充指導」では，「学習のまとめなどの活動の際に，調べたことや考えたことを文章で表す指導」を行っている回答が「特によく行っている」「よく行っている」を含めて約４割，「学習に必要な資料を読んだり，調べたりする指導」を行っている回答が「特によく行っている」「よく行っている」を含めて約４割となった。

国語科，算数科とも，補充指導を行っている回答は，全体として５割程度に留まり，また，その内容は，躓き（つまづき）に対応する指導を中心として行われ，予習的な内容での指導はあまり行われていなかった。

その他の教科の補充指導は全体として行われている割合は少なかった。

（2）言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について

①各教科等の学習を円滑に進めるための言語指導に関する事項

●在籍学級での各教科等の学習を円滑に進めるための連携

表５－１　在籍学級担任と通級による指導の担当者が各教科の学習進度や学習の状況について伝え合っている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	15	18.5
よく行っている	28	34.6
あまり行っていない	25	30.9
行っていない	10	12.3
その他	3	3.7

表５－２　在籍学級担任からの情報を基に，各教科の学習の進度や学習の状況に合わせて，各教科の学習の進度や学習の状況に合わせた内容の言語指導を行っている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	9	11.1
よく行っている	27	33.3
あまり行っていない	29	35.8
行っていない	12	14.8
その他	4	5.0

表５－３　通級による指導担当から在籍学級担任へ子どもの言語の状況について伝え各教科の指導上の配慮について説明している

	回答数	割合（%）
特によく行っている	17	21.0
よく行っている	34	42.0
あまり行っていない	21	25.9
行っていない	6	7.4
その他	3	3.7

「在籍学級担任と通級による指導の担当者が各教科の学習進度や学習の状況について伝え合っている」の設問で，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせ，行っているとの回答が約５割，「在籍学級担任からの情報を基に，各教科の学習の進度や学習の状況に合わせて，各教科の学習の進度や学習の状況に合わせた内容の言語指導を行っている」の設問では，約４割，「通級による指導担当から在籍学級担任へ子どもの言語の状況について伝え各教科の指導上の配慮について説明している」の設

問では，約６割が行っているとの回答であった。

●在籍学級（学校）での行事や生活を円滑に進めるための連携

表５－４　在籍学級担任と通級による指導の担当者が学校での生活や行事などについて伝え合っている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	18	22.2
よく行っている	47	58.0
あまり行っていない	11	13.6
行っていない	2	2.5
その他	3	3.7

表５－５　運動会・遠足など学校行事に関する事柄を取り上げての言語指導を行っている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	18	22.2
よく行っている	40	49.4
あまり行っていない	16	19.8
行っていない	4	4.9
その他	3	3.7

「在籍学級担任と通級による指導の担当者が学校での生活や行事などについて伝え合っている」の設問では，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせ，行っているとの回答が約８割，「運動会・遠足など学校行事に関する事柄を取り上げての言語指導を行っている」の設問では約７割が行っているとの回答であった。

②生活やコミュニケーションを豊かにするための言語指導に関する事項

●言葉の使用を豊かにする指導

表５－６　通級による指導で行った学習を在籍学級で報告したり発表したりする機会を設けている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	6	7.4
よく行っている	19	23.5
あまり行っていない	38	46.9
行っていない	15	18.5
その他	3	3.7

表５－７　在籍学級での学習発表について，通級による指導で準備をしたり，練習をしたりしている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	5	6.2
よく行っている	37	45.7
あまり行っていない	22	27.1
行っていない	14	17.3
その他	3	3.7

「通級による指導で行った学習を在籍学級で報告したり発表したりする機会を設けている」の設問で，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせて行っているとの回答が約３割，「在籍学級での学習発表について，通級による指導で準備をしたり，練習をしたりしている」の設問では，約５割が行っているとの回答であった。

●コミュニケーションを豊かにする指導

表５－８　在籍学級のクラスメイトとの遊びや活動などで必要な決まりや約束事などについて，話し合ったり確かめたりする

	回答数	割合（%）
特によく行っている	6	7.4
よく行っている	42	51.8
あまり行っていない	19	23.5
行っていない	11	13.6
その他	3	3.7

表５－９　在籍学級のクラスメイトとトラブルについて言葉でのやり取りの躓きがあれば，その状況を尋ねたり，原因を説明したりしている

	回答数	割合（%）
特によく行っている	17	21.0
よく行っている	37	45.7
あまり行っていない	16	19.7
行っていない	8	9.9
その他	3	3.7

「在籍学級のクラスメイトとの遊びや活動などで必要な決まりや約束事などについて，話し合ったり確かめたりする」では，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせて行っているとの回答が約６割，「在籍学級のクラスメイトとトラブルについ

て言葉でのやり取りの躓きがあれば，その状況を尋ねたり，原因を説明したりしている」の設問では，「特によく行っている」「よく行っている」を合わせ，行っているとの回答が約７割になっている。

在籍学級との連携については，学校行事等の連絡，また，在籍学級でのクラスメイトとのトラブルに対応した指導を行っているとの回答が比較的多かった。

（3）通級による指導における難聴児童への言語指導についての考え方について

①言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項

表６－１　言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項

	回答数	割合（%）
特に重要である	66	81.5
重要である	9	11.1
あまり重要でない	0	0
重要でない	0	0
その他	6	7.4

②在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）

表６－２　在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）

	回答数	割合（%）
特に重要である	56	69.1
重要である	20	24.7
あまり重要でない	0	0
重要でない	0	0
その他	5	6.2

③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項

表６－３　聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項

	回答数	割合（%）
特に重要である	61	75.3
重要である	15	18.5
あまり重要でない	0	0
重要でない	0	0
その他	5	6.2

④読むこと。書くことなどに関する事項

表６－４　読むこと・書くことなどに関する事項

	回答数	割合（%）
特に重要である	29	35.8
重要である	47	58.0
あまり重要でない	0	0
重要でない	0	0
その他	5	6.2

⑤言葉に関する基礎的な事項

表６－５　言葉に関する基礎的な事項

	回答数	割合（%）
特に重要である	30	37.0
重要である	45	55.6
あまり重要でない	0	0
重要でない	0	0
その他	6	7.4

⑥文字などの表記に関する基礎的事項

表６－６　文字などの表記に関する基礎的事項

	回答数	割合（%）
特に重要である	18	22.2
重要である	49	60.5
あまり重要でない	7	8.7
重要でない	1	1.2
その他	6	7.4

⑦各教科の補充指導

表６－７　各教科の補充指導

	回答数	割合（%）
特に重要である	6	7.4
重要である	51	63.0
あまり重要でない	14	17.3
重要でない	3	3.7
その他	7	8.6

①から⑤までの「言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項」「在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項」「聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項」「読むこと・書くことなどに関する事項」「言葉に関する基礎的な事項」の各設問について，全ての回答者が「特に重要だと思われる」あるいは「重要だと思われる」の回答をしていた。

その中でも，「言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項」「在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項」「聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項」などコミュニケーションや環境の整備に関する事項については，「特に重要だと思われる」との回答が多かった。

⑥，⑦の「文字などの表記に関する基礎的事項」「各教科の補充指導」の各設問については，「あまり重要でない」「重要でない」との回答が１割から２割程度あった。

９．まとめ

（1）通級による指導における難聴児童への言語指導ついて

ここでは，前述の⑴の通級による指導における難聴児童への言語指導についての設問での回答と⑶通級による指導における難聴児童への言語指導についての考え方の設問での回答を関連付けて整理した。

①言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項

言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する各指導事項については，行っているとの回答が多かった。また，これらの指導事項について，「特に重要である」との回答が最も多く，さらに「重要である」との回答を合わせると，全ての回答者がこの指導事項の関する重要性を認識していた。

②在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）

在籍学級や保護者に対して，難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する各指導事項については，行っているとの回答が多く，また，これらの指導事項について，回答者の多くが，「特に重要である」「重要である」と回答をし，その重要性が認識されている。

③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項

聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する各指導事項については，「特に重要である」「重要である」との回答を合わせると全ての回答者がこの指導事項の重要性を認識しているものの，この指導事項の指導を実施に行っているとの回答の割合が7，８割程度に留まっていた。

④読むこと・書くことなどに関する事項

読むこと･書くことなどに関する各指導事項では，書くことの指導よりも読むことの指導を，また，長文の読解指導よりも短文の読解指導を行っているとの回答が多かった。

これらの指導事項については，「重要である」との回答が最も多く，「特に重要である」との回答を合わせると，全ての回答者がこの指導事項の関する重要性を認識していた。

⑤言葉に関する基礎的な事項

言葉に関する基礎的な事項についての各指導事項では，構文や文の形態などに関する指導よりも，語彙の側面での言語指導が行っているとの回答が多かった。これらの指導事項については，約９割が，「特に重要である」あるいは「重要である」とする回答をしていた。

⑥文字などの表記に関する基礎的事項

文字などの表記に関する基礎的事項についての指導では，漢字の読み書きの指導よりも，かな文字の

指導を行っているとする回答が多かった。

これらの文字などの表記に関する指導については，指導事項については，約８割が，「特に重要である」あるいは「重要である」とする回答をしているものの，聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項や読むこと・書くことなどに関する事項などと比べると重要性を認識する回答は少なかった。

⑦各教科の補充指導

各教科の補充指導として行われる言語指導の内容は，予習的な内容よりも，躓き（つまづき）に対応する復習的な内容が多かった。この指導事項については，約８割が，「特に重要である」あるいは「重要である」とする回答をしているものの，聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項や読むこと・書くことなどに関する事項などと比べると重要とする回答は少なかった。

（2）言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について

①各教科等の学習を円滑に進めるための言語指導に関する事項

各教科等の学習を円滑に進めるための言語指導に関する事項では，在籍学級での各教科の学習を円滑に進めるための連携よりも，在籍学級（学校）での行事や生活を円滑に進めるための連携を行っているとする回答が多かった。

在籍学級での各教科等の学習を円滑に進めるための連携については，在籍学級からの情報よりも通級による指導からの情報を発信することが多いという傾向が見られた。

在籍学級（学校）での行事や生活を円滑に進めるための連携では，在籍学級担任と通級による指導の担当者間での情報のやり取りが比較的多く行われていた。

②生活やコミュニケーションを豊かにするための言語指導に関する事項

生活やコミュニケーションを豊かにするための言語指導に関する事項では，言語の使用を豊かにするための指導よりも，コミュニケーションを豊かにする指導を行っているとする回答が多かった。

言葉の使用を豊かにする指導では，通級による指導で学習したことを通常の学級で発表する取組よりも，通常の学級での学習発表会の準備や練習をするための指導指導が多く行われていた。

コミュニケーションを豊かにする指導では，トラブル防ぐための指導よりも，トラブルが生じた時の対応にあたる指導が多く行われれる傾向が見られた。

Ⅴ．終わりに

本稿では，通級による指導（難聴）における言語指導について，「全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査」（平成18（2006）年度国立特殊教育総合研究所調査），「全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（全国大会）難聴分科会発表テーマ（平成９～19（1997～2007）年度）」，「『通級による指導（難聴）』における難聴児童への言語指導に関する調査」などを資料にその現状を概観した。

その結果，次のような現状と課題が浮かび上がってきた。

「通級による指導（難聴）」における難聴児童への言語指導に関しては，豊かなコミュニケーションを形成するための意欲態度の育成や環境への働きかけが重視され，通常の学級との連携についても，担任や学級の児童の障害理解や難聴児童との接し方などやコミュニケーション関係に関わる内容に視点がおかれている。また，話す力，聞く力などのコミュニケーションを支えていく基礎的な技能を育てる指導についてもよく行われており，在籍学級でのコミュニケーションの実際を視野に入れた実際的な働きかけが行われているものと思われる。

読むこと書くことについては，読むこと，書くことを支えていく基礎的な技能を育てる指導が行われている。また，文字に関する指導，語彙に関する指導，助詞の使用や構文，文の形態など統語に関する指導も行われている。しかしながら，通級による指導におけるこれらの指導が，読解指導，作文指導，読書指導など読むこと書くことの実際の活動にどう機能しているのか在籍学級で行われる国語科等の指導との関係を検討をする必要があるだろう。

通級による指導の趣旨を踏まえ，在籍する学級の

担任との連携は不可欠である。児童の障害理解，教師やクラスメイトとのコミュニケーションを視点にした連携など，在籍学級（学校）での行事や生活を円滑に進めるための連携が多く行われているが，各教科等の学習を円滑に進めるための連携については，行われることが比較的少ない。教科学習は，読むことや書くことの活動と関連が深いことから，教科学習を充実させるためには，在籍学級と通級による指導の双方の情報の共有と情報に基づく双方の取組が重要であろう。

こうした観点から，通級による指導における各教科の補充指導の在り方や教科指導に関わる連携についての検討が，今後，必要であると考えられる。

通級による指導では，コミュニケーションを支える聞く話すの基礎的な能力，読むこと書くことを支える基礎的な能力を培う指導が中心となっている。これらの指導は，ともすれば，言語の形式的な側面の各要素を実際の言語の使用場面から切り離して指導することになりがちであるが，今後は，これらの指導が，コミュニケーションの実際，読むことや書くことの実際の活動にどのように機能しているのかを明らかにする必要があるだろう。特に，その場合は，言語の使用場面の中心となる在籍学級との連携が重要となるであろう。

通級による指導（難聴）における指導は，限られた時間での指導であること，在籍学級での指導を補完する指導であることなどから，通級による指導が子どもの学習の不足や躓き（つまづき）を補う内容になったり，言語の要素的な内容の指導になる傾向がある。言語は，実際のコミュニケーションの場面や実際の読み書きの中で使われながら培われるものであることから，指導内容方法の検討が一層求められることになる。特に，読み書きの指導については，語彙や文法など言語の形式的な理解や言語の要素的な理解を図る指導から，新たなリテラシー概念の構築への転換が提言されている[11) 12)]。

今後，読み書きの指導について，これまでの分析的で教授的な指導から，実際の日常的なコミュニケーションをベースにした対話的で総合的な指導の在り方を検討する必要があるだろう。

通級による指導（難聴）では，これまでも日記や連絡帳を通した取り組みが行われてきた。その中で，通級担当教師，在籍学級担任，保護者を結ぶ書き言葉でのコミュニケーション活動が行われてきた。今後これらの実践を重ね，その分析や指導効果の検証などを通して，指導法としての確立に向けた研究が必要となると思われる。

引用文献

1）独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(編)：全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査, 平成18年度－19年度課題別研究報告書, 2007.

2）岩城　謙：聴覚障害児の言語とコミュニケーション, 教育出版, 1986.

3）牧野泰美：言語に障害のある子どもへのコミュニカティブアプローチ. 聴覚言語障害児のリテラシーの向上を目指して, 平成14年度－17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書, 国立特殊教育総合研究所, pp.8-10, 2006.

4）松村勘由・牛久保京子：ことばの教室における子どものリテラシーを高めるコミュニケーションアプローチについての一考察. 聴覚言語障害児のリテラシーの向上を目指して, 平成14年度－17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書, 国立特殊教育総合研究所, pp.17-21, 2006.

5）文部省：聴覚障害教育の手引―多様なコミュニケーション手段とそれを活用した指導―, 海文堂出版, 1995.

6）文部省(編)：盲学校,聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年３月)解説―幼稚部・小学部・中等部・高等部―, 総則編, 海文堂出版, 2000.

7）文部科学省(編)：就学指導資料, 初等中等教育局特別支援教育課, 2002.

8）文部科学省：特別支援教育資料, 平成18年度, 初等中等教育局特別支援教育課, 2007a.

9）文部科学省(編)：通級による指導の手引―解説とＱ＆Ａ―, 改訂版, 第一法規, 2007b.

10）小田侯朗：聴覚障害教育におけるリテラシー観の変遷に関する研究. 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 29, 1-10, 2002.

11）小田侯朗：聴覚障害教育におけるリテラシーと手話活用. 音声言語医学, 47(3), 294-297, 2006.

12）岡崎敏雄・岡崎眸：日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ, 凡人社, 1990.

13）齊藤佐和：コミュニケーション方法とリテラシー形

成(特別発言), 音声言語医学, 47(3), 332-335, 2006.
14）柳生　浩：わかりやすい言語指導, 湘南出版社, 1995.
15）全難言協：第26回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(大分大会)大会要項, 1997.
16）全難言協：第27回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(静岡大会)大会要項, 1998.
17）全難言協：第28回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(東京大会)大会要項, 1999.
18）全難言協：第29回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(山形大会)大会要項, 2000.
19）全難言協：第30回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(島根大会)大会要項, 2001.
20）全難言協：第31回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(北海道大会)大会要項, 2002.
21）全難言協：第32回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(群馬大会)大会要項, 2003.
22）全難言協：第33回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(近畿大会)大会要項, 2004.
23）全難言協：第34回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(宮崎大会)大会要項, 2005.
24）全難言協：第35回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(岐阜大会)大会要項, 2006.
25）全難言協：第36回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(東京大会)大会要項, 2007.

(受稿年月日：2007年９月６日，受理年月日：2007年12月７日)

「通級による指導（難聴）」における難聴児童への言語指導に関する調査　**No.1**

お名前（　　）	通級による指導（難聴）の指導経験年数（　　）年	※ 差し支えなければお名前のご記入を願いします。

1．通級による指導における難聴児童への言語指導について

次の各指導事項は、「通級による指導（難聴）」の言語指導として考えられる事柄を掲げています。
各項目の左側の欄には「指導事項」が記述され、右の欄には、「指導事項」に対応する「指導及び学習活動の例」が例示されています。
先生が、難聴児童の指導の中で、特によく行っている事項に◎、 よく行っている事項に○、 あまり行っていない事項に△、 行っていない事項に×　を、各設問の右にあるチェック欄に記入してください。
設問項目にない内容がある場合には、その他の欄に記述してください。

	指導事項	指導及び学習活動の例	チェック
障害を改善克服するための特別な指導	**①言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項**		
	コミュニケーションへの意欲や態度の習得		
	人と話す意味や楽しさを理解する	教師や仲間との話し合い（おしゃべり）などを通して、人と話す楽しさや喜びを知る。	
	その他（		
	文字や言葉に関心を持つ		
	日常生活の中で触れる文字や言葉に関心を持ち、調べたり、尋ねたり、話し合ったりする	日常生活の中にある様々な言葉について、調べたり、尋ねたり、話し合ったりする。	
	その他（		
	読書活動への関心と意欲		
	読書に親しみ、読書習慣を形成する	本の読み聞かせや紹介を通して、読書の楽しさを知せたり、読後の感想などを話し合ったりする。	
	その他（		
	②在籍学級や保護者に対して、難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）		
	在籍学級（在籍校）への働きかけ		
	在籍学級担任（関係教職員）への難聴児童の理解や配慮・指導の在り方についての説明	在籍学級での児童の状況を把握するとともに、児童の理解、配慮や指導について話し合う。	
	在籍学級の他の児童へ難聴の理解や難聴児童とのコミュニケーション等についての説明	在籍学級を訪問し、難聴や難聴児童との関わり合いについて説明したり話し合ったりする。	
	その他（		
	家庭（保護者・家族）への働きかけ		
	難聴児童の理解や家庭での配慮・指導の在り方についての説明	保護者面接などで児童の状況を把握するとともに、児童の理解、配慮や接し方について話し合う。	
	その他（		
	③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項		
	聞くこと・話すことなど基礎的な言葉の力		
	話し言葉を聴き取り理解する力（理解）	単文や短文を口頭で提示し、復唱させる。短文を口頭で提示し、内容について説明する。	
	伝えたい内容を言葉で表現する力（表現）	場面絵カードを提示し、状況を説明する。	
	その他（		

No.2

	指導事項	指導及び学習活動の例	チェック
障害を改善克服するための特別な指導（続き）	**③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項（続き）**		
	話し手の意図を聴き取る力、自分の意図を伝える力		
	話し手に傾聴し、その意図を掴みながら、内容を理解する	一対一で対話する場面を設け、相手の話す内容の意図や柱に注目して聴き取る。	
	伝えたい内容を整理し、相手に理解されるように表現する	一対一で対話する場面を設け、話す内容の意図や柱を整理して表現する。	
	その他（		
	言葉のやりとりを通し気持ちや考えなどを伝え合う力		
	相手と話題を共有し、テーマに沿った話し合いをする	話し合い場面を設け、テーマに沿った話し合いをする。	
	相手の話に対応して自分の話をするなど言葉でやりとりする	話し合い場面を設け、相手の話に対応して自分の話をするなど言葉でやりとりする。	
	その他（		
	生活の中で使う言葉の意味や使い方などに関する事項		
	学校で使われる特有の言葉の意味や使い方	朝礼、日直、保健室等学校で使う特有の言葉の意味や使い方を理解したり使ったりする。	
	児童の文化、時事的、社会的な事柄に関する言葉の意味や使い方	アニメや遊び、時事的・社会的な事柄に関する言葉の意味を理解したり使ったりする。	
	生活でよく使う慣用句、四文字熟語、語法、文型など言葉の使い方	生活の中でよく使われる慣用句、言い回しなどについて理解したり使ったりする。	
	その他（		
	④読むこと・書くことなどに関する事項		
	文や文章を読み取る力（読解）		
	短い文章の読み取り（短文読解）	短い文章の内容を読み取る。	
	物語文、説明文などの読み物を読み取る力（長文読解）	物語文、説明文など長い文章の内容を読み取る。	
	その他（		
	文や文章を構成する力（作文）		
	伝えたい内容を短文で構成し表現する	絵などで提示された事柄を短い文章で表現する。	
	経験したこと、考えたことなどを文章で表現する	生活などで経験したことを日記、作文などで表現する。	
	その他（		
	⑤言葉に関する基礎的な事項		
	言葉を拡げたり、言葉の相互関係を整理し理解する（語彙）		
	知らない言葉、分からない言葉について意味を推測したり、調べたりして理解する	教材や生活の中で見つけた分からない言葉を文脈や例文から推測したり、辞書などで調べる。	
	知っている言葉の概念や他の言葉とのつながりを整理し理解する	言葉の意味やその言葉の上位概念、下位概念、同義語、類義語などについて確かめる。	
	その他（		
	文の意味を文の構造や形態に注目して理解する（文理解）		
	構文に注目しながら、文の意味を理解をする	主語、動詞(述語)、目的語、補語など文を構成する要素に注目しながら文の意味を理解する。	
	文の形態に注目しながら、意味の理解をする	過去形・現在形、受動態・能動態等の文の形態に注目して文の理解をする	
	その他（		

No.3

	指導事項	指導及び学習活動の例	チェック
（続き）	⑥文字などの表記に関する基礎的事項		
	平仮名、片仮名、漢字などの文字を読んだり書いたりする（表記）		
	かな文字（拗音、促音、撥音、仮名遣い等を含む）の読み書き（文字と音との関係の理解）	拗音などや仮名遣い等を含む平仮名の読み方を理解し、文や文章の中で書いたり読んだりする。	
	漢字（送り仮名を含む）の読み書き	送りがなを含む漢字の読み方を理解し、文を読んだり書いたりする。	
	その他（		
	句読点、段落などの意味や表記についての理解		
	文や文章の区切りを意識して句読点を適切に打つこと	句読点の意味を理解し、文や文章の中で適切に句読点を打つ。	
	文章のまとまりを意識し、段落の始めや会話の部分などの必要な箇所の改行をすること	文章のまとまりや構成を意識して適切に改行する。	
	その他（		
各教科の補充指導	⑦各教科の補充指導		
	国語科の補充指導		
	躓きやすい内容をあらかじめ学習するなどの予習的な内容の指導	躓きやすい語句を事前に学習する。	
	教科書の単元や教材の内容のあらましを事前に学習するなどの予習的な内容の指導	子どもの言語力に合わせた教材作成し、教科書の単元や教材のあらましを事前に学習する。	
	躓きやすい内容を確かめたり、躓いている事柄を補う復習的な内容の指導	単元の学習内容を整理したり、躓きやすい語句の理解を確かめたりする。	
	その他（		
	算数科の補充指導		
	算数の学習で必要な基礎的な概念を表す言葉（算数で使う言葉）についての指導	たす、ひく、かける、わる、角、線、頂点、割合など算数で使う言葉の意味を確かめる。	
	文章問題など躓きやすい内容をあらかじめ学習するなどの予習的な内容の指導	単元にある躓きやすい文章問題の意味をあらかじめ文に即して理解するなどしておく。	
	文章問題など躓きやすい内容を確かめたり、躓いている事柄を補う復習的な内容の指導	単元にある躓きやすい文章問題の意味の理解を確かめる。	
	その他（		
	その他の教科の補充指導		
	学習のまとめなどの活動の際に、調べたことや考えたことを文章で表す指導	学習のまとめの活動の際に、調べたことや考えたことを文章でまとめたり、まとめた文を確かめる。	
	学習に必要な資料を読んだり、調べたりする指導	学習に必要な資料を調べたり、資料を読んで理解をしたりする。	
	その他（		

※ 各設問欄の指導事項以外に言語指導として行っていることがありましたら記述してください。

No.4

2. 言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について

ここでは、言語指導に関して在籍する通常の学級との連携について考えられる事柄を掲げています。
先生が、難聴児童の指導の中で、特によく行っている事項に◎、 よく行っている事項に○、 あまり行っていない事項に△、 行っていない事項に×を、各設問の右にあるチェック欄に記入してください。
設問項目にない内容がある場合には、その他の欄に記述してください。

	在籍する通常の学級と連携して取り組んでいる事柄	チェック
言語指導に関して在籍する通常の学級との連携	⑦各教科等の学習を円滑に進めるための言語指導に関する事項	
	在籍学級での各教科の学習を円滑に進めるための連携	
	在籍学級担任と通級による指導の担当者が各教科の学習進度や学習の状況について伝え合っている。	
	在籍学級担任からの情報を基に、各教科の学習の進度や学習の状況に合わせた内容の言語指導を通級による指導で行っている。	
	通級による指導担当から在籍学級担任へ子どもの言語の状況について伝え、各教科の指導上の配慮について説明している。	
	その他（	
	在籍学級（学校）での行事や生活を円滑に進めるための	
	在籍学級担任と通級による指導の担当者が学校での生活や行事などについて伝え合っている。	
	運動会・遠足など学校行事に関する事柄を取り上げての言語指導を行っている。	
	その他（	
	⑧生活やコミュニケーションを豊かにするための言語指導に関する事項	
	言葉の使用を豊かにする指導	
	通級による指導で行った学習を在籍学級で報告したり発表したりする機会を設けている。	
	在籍学級での学習発表について、通級による指導で準備をしたり、練習をしたりしている。	
	その他（	
	コミュニケーションを豊かにする指導	
	在籍学級のクラスメイトとの遊びや活動などで必要な決まりや約束毎などについて、話し合ったり確かめたりする。	
	在籍学級のクラスメイトとトラブルについて言葉でのやり取りの躓きがあれば、その状況を尋ねたり、原因を説明したりしている。	
	その他（	

※ 各設問欄以外に言語指導に関して在籍する通常の学級との連携として行っていることがありましたら記述してください。

3. 通級による指導における難聴児童への言語指導についての考え方 **No.5**

ここでは、この調査の設問に対応して、言語指導についてのお考えをお尋ねします。
次の7つの指導事項の中で、先生が、特に重要だと思われる事項に◎、 重要だと思われる事項に○、 あまり重要でないと思われる事項に△、重要でないと思われる事項に×　を、各設問の右にあるチェック欄に記入してください。

指導事項	チェック
①言葉やコミュニケーションについての意欲態度に関する事項	
コミュニケーションへの意欲や態度の習得	
文字や言葉に関心を持つ	
読書活動への関心と意欲	
②在籍学級や保護者に対して、難聴児童の理解や配慮・接し方など言葉を育てる環境を整えることに関する事項（言語環境）	
在籍学級（在籍校）への働きかけ	
家庭（保護者・家族）への働きかけ	
③聞くこと・話すこと・コミュニケーションなどに関する事項	
聞くこと・話すことなど基礎的なことばの力	
話し手の意図を聴き取る力、自分の意図を伝える力	
言葉のやりとりを通し気持ちや考えなどを伝え合う力	
生活の中で使う言葉の意味や使い方などに関する事項	
④読むこと・書くことなどに関する事項	
文や文章を読み取る力（読解）	
文や文章を構成する力（作文）	
⑤言葉に関する基礎的な事項	
言葉を拡げたり、言葉の相互関係を整理し理解する（語彙）	
文の意味を文の構造や形態に注目して理解する（文理解）	
⑥文字などの表記に関する基礎的事項	
平仮名、片仮名、漢字などの文字を読んだり書いたりする（表記）	
句読点、段落などの意味や表記についての理解	
⑦各教科の補充指導	
国語科の補充指導	
算数科の補充指導	
その他の教科の補充指導	

※　各設問欄の指導事項以外に言語指導として重要だと思われることがありましたら記述してください。

Current status of and issues in language training by resource room instruction for children with hard of hearing

MATSUMURA Kanyu*, MAKINO Yasumi**, and YOKOO Shun*

*Department of Teacher Training and Information, National Institute of Special Needs Education (NISE), Yokosuka, Japan
**Department of Policy & Planning, National Institute of Special Needs Education (NISE), Yokosuka, Japan

Received September 6, 2007; Accepted December 7, 2007

Abstract: We reviewed the current status of language training by resource room instruction for children with hard of hearing on the basis of materials, such as practice reports and the results of surveys, and found the following. The training of "listening and speaking" concerning communication is widely practiced in resource room instruction for children with hard of hearing. In the training of "reading and writing," instruction on elements of the formal aspects of language, such as letters, vocabulary, and grammar, and instruction on acquiring skills, such as reading short sentences, are widely provided.

Key Words: Resource room instruction for children with hard of hearing, Language training, Literacy, Training of reading and writing, Communication